



2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第5戦 KYUSHU MOTORCYCLE FESTA 2017

TOHO Racing レースレポート
JSB1000クラス #104 山口 辰也

6月24日(土曜日) 天候：雨 路面:ウエット
公式予選／14番手
6月25日(日曜日) 天候：雨のち曇り 路面:ウエット・ドライ
決勝／DNF
開催地：大分県 オートポリス（1周=4.674km）
入場者数：6640人（2日間合計）

第4戦ツインリンクもてぎを終え、チームは東広島を經由し、第5戦の舞台となる大分県・オートポリスに移動。事前テストをこなし、今回のレースウイークを迎えた。事前テストは、快晴に恵まれマシンのセットアップを進めて行くが、軽い転倒もあり、今ひとついいフィーリングが出ていなかった。

レースウイーク初日のART合同走行は、1本目でいきなりマシンに不具合が発生し、1コーナーで大転倒を喫してしまう。ハイスピードからのクラッシュだったため、マシンは大きなダメージを受けてしまうが、山口に大きなケガがなかったのが不幸中の幸いだった。チームスタッフは、2本目に向けて準備を進めコースイン。計測2周目で1分50秒台に入れるが、再び転倒を喫してしまい、ほとんどセッティングを進められないまま初日を終えていた。

土曜日は、天気予報通り、朝から雨模様となり路面はウエット。阿蘇の山間にあるオートポリスは、霧というよりも雲が降りて来てしまい視界不良のため他のクラスのセッションスタートが遅れていた。JSB1000クラスもノックアウト方式ではなく、35分間の計時予選で行われることに変更されたが、他のクラスが次々に予選中止となっていた。そしてJSB1000クラスの時間は、奇跡的に雲が晴れ、セッションが開始された。

事前テストからドライだったが、オートポリスのウエットは、この予選セッションが初めてとなる。山口は、まずコースインし、感触を確かめながらペースを上げて行く。そしてピットに戻りマシンをアジャストする。しかし、雨足はセッションを追う毎に強くなっており、タイムを更新するには厳しいコンディションとなっていた。結局、思うようにタイムアタックできずに、序盤に記録したタイムがベストタイムとなり14番手グリッドと後方からのスタートとなる。

決勝日も天気が心配されたが、朝からオンタイムでスタート。朝方には強い雨が降っていたが、セッションが始まるころに雨は止んでいたが、ウォームアップ走行はウエットコンディションだった。

JSB1000クラスのレースが始まるころには、またあやしい雲が空を覆っていたが、ほとんどのライダーがスリックタイヤを履いてグリッドに着いていた。そしてウォーミングアップランが始まろうというところでスタートディレイ。2度目のスタート進行の後、ようやくレースは始まった。

山口は、オープニングラップを12番手で終わると、2周目に10番手、3周目には9番手、4周目にはマイケル・ファンデル・マークを最終コーナーの進入でかわして8番手に上がり、さらに前を狙っていた。決勝に向けて変更したセッティングがいい方向に行き、攻めの走りができていたからだ。しかし、再び雲がコースを覆い始めたため、赤旗が提示されレースは中断。3周終了時の順位でグリッドにつき残り12周で再スタートが切られることになる。

この日、2度目のスタートは、まずまず決まり、目の前にはヨシムラの津田選手がいた。その津田選手を第1ヘアピンでかわしたところで、マシントラブルが発生しスローダウン。直後にいた津田選手が何とか避けてくれたため大事には至らなかったが、津田選手には申し訳ないアクシデントとなってしまう。山口は、そのままピットに無念のリタイア。トラブルの原因を追及し、今回よかったセッティングを後半戦に活かして行きたいところだ。



JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「決勝に向けて大きな変更をしたのですが、すごくいい方向に行き、ボクの求めているフィーリングが出て攻める走りができていました。途中で赤旗中断となってしまいましたが、そこまでは、いいペースで走れていましたし、スタート順位は後方でしたが、追い付く自信もありました。レース2でもスタートは、うまく行き第1ヘアピンで津田選手を抜いたところでトラブルが出てしまい、津田選手に迷惑をかけてしまい申し訳なかったです。トラブルは残念でしたが、大きく変更したセットを生かして、鈴鹿8耐、そして後半戦を戦って行きたいと思っています」

チーフメカニック 戸井田剛コメント

「初日から転倒もあり、いろいろ試したいパーツもあったのですが、土曜日は雨ということでドライでのセッティングをなかなか進められませんでした。決勝日朝のウォームアップ走行もウエットとなったのですが決勝は、ドライになることが分かっていたので、大きくセットを振りました。これが、いい方向に行きレース1で順位を上げて言ったところ赤旗中断。レース2も前の見える位置だったので期待できる手応えはあったのですがマシンに不具合が出てしまい悔しい結果になってしまいました。問題を解決して、今回よかった部分を次回に生かして行きたいですね」

総監督 福間勇二コメント

「新型マシンのセッティングを進めていく予定でしたが、天候不良や転倒もあったため、思うように進めることが出来なかったのが残念です。ご支援くださっている皆様には申し訳ございません。決勝レースではチームの考えたセットが良い方向に行き、今後につながる手応えを掴むことが出来ましたので、次戦は鈴鹿8時間耐久となりますが、よい走りが出来るよう全力で取り組んで参りたいと思います」



株式会社 TOHO
TOHO Racing
担当:野口